

一部 ¥200

2019.10.01発行

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター3F
TEL. 072-867-6721 FAX. 072-867-6721Eメール lcjejapan@hotmail.com
ホームページ LCJEJAPAN.com

郵便振替 LCJE日本支部・00950-4-25633

巻頭言 アミット論文が 提起したもの



LCJE 運営委員 佐野 剛史

LCJE ニュース購読者のみなさんはご存じかと思いますが、2019年5月号(235号)にユダヤ人宣教団体ティックーン(代表:ダニエル・ジャスター)と新使徒的宗教改革(NAR)との関係を指摘した論文(以下、著者名から「アミット論文」と呼ぶ)の連載が始まりました。当初は6回の掲載予定でしたが、運営委員会での話し合いの結果、2019年7月号(237号)で連載が打ち切られ、3回の掲載で終了しました(全文は、LCJE ニュースに掲載されなかった部分も含め、LCJE 日本支部のWebサイト <https://lcjejapan.com/literature.html> で読むことができます)。私はこの論文の翻訳者として、アミット論文の提起したことは何だったのかを自分なりにまとめてみます。読者のみなさんもご意見がありましたら事務局へのメール(lcjejapan@hotmail.com)またはホームページのお問い合わせフォーム(<https://lcjejapan.com/>)にてお知らせいただけると幸いです。

1. アミット論文が提起したもの

(1) 現代に使徒はいるのだろうか?

初代教会以降、キリスト教会には長い間使徒がいませんでした。それは、NARが使徒職の「回復」という言い方をしていることからもわかります。教会史における使徒の存在について、カリスマ派の神学者、ウェイン・グルーデム(1948年~。米フェニックス神学校教授、元トリニティー神学校教授)は次のように証言しています。

特筆に値するのは、教会史の中の偉大な指導者はだれも、アタナシウスもアウグスティヌスも、ルターもカルバンも、ウェスレーもホイットフィールドも、自分のことを「使徒」と名乗ることはなかったし、周りが自分を使徒と呼ぶことを許すこともなかったという点である。近現代に自分を「使徒」と呼ぶ人があれば、その人は高ぶりやうぬぼれ、また人が受けるにふさわしいよりもはるかに大きい教会内の権威を得たいという、行きすぎた野心と欲望に突き動かされているのではないかとすぐに疑われることになる。(Wayne Grudem, Systematic Theology, Zondervan, 1994。佐野訳)

このように長い間いなかった使徒が現れたと主張して

いるのですから、使徒の回復を聖書的に立証する責任はNARの側にあります。しかし、現実には立証責任を果たしているとは言いがたい状況です。その点については、聖書的に検討した結果を私(佐野)個人のサイトにアップしていますので、ご興味のある方はそちらをご参照ください(<https://biblical.jp/>)。

(2) ティックーンと新使徒的宗教改革(NAR)との結びつきをどう受け止めるのか

アミット論文は、ティックーンとNARとの結びつきを明らかにしました。NARは、1949年に米国アッセンブリー教団が異端宣言を出した「後の雨運動」の影響を色濃く受けている運動です。NAR(New Apostolic Reformation)という言葉の生みの親であり、NARの思想的な父であるピーター・ワグナーは、後の雨運動について次のように語っています。

第二次世界大戦直後の北米で、神によって「第二の使徒の時代」の使徒が登場する扉が開き始めた。(中略)こうした運動(訳注:後の雨運動)のリーダーたちは眞の先駆者だった。第二次世界大戦後の使徒運動は、明らかに神ご自身が始められたことである。(C. Peter Wagner, Apostles Today, Baker Books, 2006。佐野訳)

アミット論文は、後の雨運動が異端宣言を受けたという歴史的事実がある中で、後の雨運動の後継運動として位置付けられるNAR*とユダヤ人宣教団体の結びつきをどう受け止めるのか、という問題提起を行ったことになります。異端問題に関わることですので、キリスト者としてアミット氏の指摘を軽く受け流すことはできません。また、日本でも、NARについてはLCJE日本支部の加盟団体であるハーベスト・タイム・ミニストリーズ(ウィリアム・ウッド著『日本の教会に忍び寄る危険なムーブメント』を刊行)や、後の雨運動に異端宣言を出したアッセンブリー教団に属する村上密牧師も警告を発していますので(<https://maranatha.exblog.jp/i14/>)、慎重に慎重を重ねて検討すべきではないかと考えます。

* 実際に、NARの中にはビル・ハモン、ポール・ケイン、ボブ・ジョーンズなど、後の雨運動に直接関わっていた指導者も多数います。

..... 8P へ続く▶



P2▶3

トロント国際大会の報告 石黒 イサク

P4

メシアの家 綱本 パフロ

P5

シオンとの架け橋 石井田 直二

P6

アルコリス・ミニストリー 早川 衡

P7

LCJEアーカイブス ゲアリー・ヘトリック

P8

1Pの続き

お知らせ

事務局より

第 11 回 LCJE 国際大会に参 加 し て

ライフ・イン・メサイヤ日本委員 LCJE 日本支部ニュース編集長 石黒 イサク



▲ザレツキー師がアジアに於ける働きのために祈る

この度、カナダのトロントにて開催されました、LCJE 国際大会に、日本を代表して石井秀和兄とともに、出席させていただきました。去る 9 月 14 日土曜日には、東京のお茶の水クリスチャンセンターと、大阪の北浜スクエアにおいて、簡単な報告会をさせていただきました。しかし一週間にわたる濃密な講演、分科会、多くの興味深い情報交換などは、とても短時間で紹介することは不可能です。それ故、今後この紙面を通して、大会にての講演やその他のいろいろな有益な情報をご紹介したいと願っています。今回はまず、トロント大会が開かれた経緯と、今回の大会において採択された大会宣言を掲載いたします。



▲南アフリカ地区コーディネーター、セシリア・バーガー姉と、香港地区コーディネーター、マーク・ラム兄

1999 年にニューヨークにおいて LCJE の国際大会が開催されてから早 20 年の歳月が経過し、北米で開催地を模索しているときに、カナダのチョーズンピープル・ミニストリー代表であるジョージ・セダカ師は、カナダのト

ロントこそ開催地にふさわしいと名乗りを上げて、その意義と立地条件などを紹介されました。カナダは世界第 4 位、385,000 人のユダヤ人口を有していて、トロント市は都市のユダヤ人口の第 10 位に数えられます。何と 22 万人ものユダヤ人が住んでいる都市であります。すでに多くの宣教団体やメシアニック会衆が存在し、活発な活動をしていることと、このような国際大会によって、キリスト教会やメシアニック会衆に対する連携強化と励ましになるからであります。また気候がとても良いことも開催地として好条件がありました。

私としては、初めての参加でしたが、ユダヤ人宣教に関わって約 30 年ですので、多くの旧友や知人との再会の時であり、今まででは E メールや文書のやりとりという関係だった多くのスタッフや関係諸氏に、直接お目にかかることができて感謝でした。

また、ハイライトとしては、14 日水曜日の夜に特別にアジアからのレポートの機会が設定されて、日本からは石黒が、香港からはマーク・ラム兄の代わりにイヴォーン姉が、韓国からはダニエル・ブー博士が短く報告を語り、その後ザレツキー師がアジアのユダヤ人伝道のためにお祈りをしてくださいました。バックには 2 年前に日本で開催されました東アジアカンファレンスのビデオを流してもらいました。



次ページに大会宣言を掲載します。今後のレポートにもご期待ください。

ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会(LCJE)第11回国際大会(カナダ・トロントにて開催)

テーマ「すべてを新しくする」 翻訳：石井秀和

また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように。(コロサイ 1:10)

ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会(LCJE)の第11回国際大会が2019年8月11～16日にカナダのトロントで開催され、6大陸の16か国から200名以上が出席した。

LCJEは、ユダヤ人への宣教に携わる団体・地域教会・教育機関・個人の国際的なネットワークであり、世界的な「ローザンヌ運動」に属している。LCJEは、1980年にタイで行われた世界福音化協議会(Consultation on World Evangelization)において、ユダヤ人に福音を届けることに関する特別委員会として発足し、8つの地域支部をもつまでに成長した。

大会は、神が世界中にいるご自分の民の間でなさっている御業を祝った。神は、あらゆる年代と背景のユダヤ人を、約束の地へだけでなく、最も重要なこととして、メシアなるイエスを通してご自分との個人的で意義深い関係へと、召し続けておられる。大会の締めくくりにあたり、出席者たちは以下の声明を発表した。

■すべてのユダヤ人に福音を

イエスアリヤにある新しいいのちの良き知らせを、すべての国・文化・民族の男女に伝えると共に、私たちの兄弟姉妹であるユダヤ人に伝えるという私たちの決意を、私たちは確認する。

ユダヤ人にとって、イエスを信じてイエスに従う者となることこそが唯一の相応しい歩みであるという私たちの信念を、私たちは確認する。なぜなら、イエスこそが、律法・預言者・諸書(訳注:旧約聖書全体)に表された、ユダヤ民族の希望の成就であられるからだ。メシアに従う者として、メシアニック・ユダヤ人が自分のユダヤ人としてのアイデンティティーを表現することは、正当なことである。

ユダヤ人伝道のために、ユダヤ人共同体内の様々なサブグループに適した、革新的で現実的なアプローチが必要であることを、私たちは確認する。イスラエル国内および世界の、超正統派、新世紀世代、そしてロシア語やアムハラ語(訳注:エチオピアの公用語)話者のユダヤ人たちの心が今福音に開かれていることを、私たちは喜んでいる。

■すべてのユダヤ人共同体にメシアニック・コングリゲーションまたは教会を

ユダヤ人に福音を届けたいという心をもってメシアニック・コングリゲーションや教会を開拓するために、諸コングリゲーション、諸教会、諸宣教団体、諸教団と協力するという私たちの決意を、私たちは確認する。

イスラエル民族と異邦諸民族のイエスアリヤの弟子たちは和解させられ、メシアにあって結ばれた一つのからだに属しているという新約聖書の教えを、私たちは確認する。私たちはこのことがもたらす挑戦をわきまえている。そこで私たちは、私たちのメシアが私たちを召してあずからせてくださったこの一致を促進し、世に表すよう、オリーブの木の「元木」と「接

ぎ木」の枝々(ローマ11:17-24)に呼びかける。

イエスのユダヤ人弟子たちは、他の信者たちと共に礼拝し、成長し、奉仕できる教会やコングリゲーションや交わりにしっかりと参加するよう召されていることを、私たちは確認する。

■すべてのメシアニック・コングリゲーションに敬虔なリーダーを

神からの正しい召命、神に仕える情熱、ユダヤ人への愛をもち、ユダヤ人ミニストリーのために適切な訓練を受けたメシアニックのリーダーたちが必要であることを、私たちは認識する。

敬虔な男女みながユダヤ人伝道への召命を新たにして参加することと共に、若い世代のリーダーたちが参画することを、私たちは歓迎し、奨励する。

■ユダヤ人共同体の中に神の国の影響力を

イエスアリヤに従う者たちは、メシアのために積極的にユダヤ人共同体と関わっていく必要があることを、私たちは確認する。

メシアニック・ビリーバーたちがより広いユダヤ人共同体に溶け込んでいくことを、私たちは奨励する。それは、ユダヤ人の行事や祝祭に参加すること、自分の民のための権利擁護活動に参加すること、そして可能な場合ユダヤ人共同体の中に住むことによってである。

イエスにある全人格の贍いのために、福音の全体をユダヤ人に届けることを、私たちは決意する。そこには、私たちによる福音の証しの構成部分として、ユダヤ人の靈的・感情的・肉体的・社会的・物質的必要に配慮することが含まれる。

いかなる形の反ユダヤ主義であれ、私たちは強く拒絶し、反対する。近年、無辜の犠牲者に対する反ユダヤ主義的攻撃が北米、欧州、アジア、そして世界中で増加していることを、私たちは深く憂慮する。

あらゆる形のこの悪に対し、毅然たる態度を取るよう—神のご計画におけるイスラエルの位置付けについて、神のことばの真理を説くことによって—私たちは全世界の教会に呼びかける。

私たちは、カナダ政府当局者たちに、イスラエルが歴史上もっていた土地に対する権利、そしてイスラエルが存在し、繁栄し、自由に暮らし、敵から自分を護る権利を、明確に承認し、同盟国なるイスラエル国を公平で公正な態度で支えるよう、特に要請する。

最後に、私たちは、ユダヤ人の救いのために熱心に祈るよう、世界中の信者たちに呼びかける。私たちの救い主で、メシアなるイエスが間もなくお帰りになるのを待ち望みつつ!

大会声明委員会 2019年8月15日 トロント 改訂版

訳注: 原文の Jesus をイエス、Yeshua をイエスアと訳しています。

♪深まる神のイスラエル人ろう者への愛情

網本 バフロ



▲教育省で働いているサラさん



▲明晴学園の校長先生(ろう者)とサラさん



▲視覚障害を持つイスラエル男性とバフロ

もうすっかり秋になりましたね。昨年、初めてイスラエル訪問してから一年が経ちました。一年が経った今でも神のみわざによりイスラエルとの関わりが続いています。またイスラエル人(ろう者)との絆が深まっているのを感じています。イスラエルを訪問する以前に、ひとりのイスラエル人ろう者を日本で案内したことはありますが、イスラエル訪問の後、イスラエル人の大変著名なろう者の方を案内する機会に恵まれたのです。その女性はイスラエルを代表する手話言語学者であり、名前はサラ・レーンズマンさんです。かねてから日本に興味を持っており、私と出会ったことがきっかけで、日本のことよりもっと知りたい!と思うようになったそうです。また、彼女はイスラエルのろう教育全体を担う仕事をしており、教育省に所属しています。私がイスラエルで講演したことにより、日本のろう教育が進んでいると知り、日本のろう教育を視察したいと思って来日しました。私のイスラエル訪問、イスラエルでの講演が彼女の来日の直接的なきっかけになったと聞き、神の働きを感じずにはいられませんでした。

彼女が東京に滞在している間、2ヶ月のイスラエル滞在で習得したイスラエル手話で通訳し、多くの情報を提供できました。それから、視察先のひとつである明晴学園が、イスラエルでろう教育を伝えるという目的を知り、普段は許可しない撮影を許可してくれたのです。許可をいただいて撮影したビデオを使ってイスラエルで研究し、イスラエルのろう教育に実際に役立てているという話を聞いて、とても嬉しく思いました。彼女は単なる個人ではなく、イスラエル人であり、彼女を助けるということはイスラエルろう者全体を助けることになります。私が彼女を助けるという仕事を神から授けられ、それが成功し、無事に終わったことに大変感動しており、神を称えたい気持ちで一杯です。

その彼女の他に、イスラエル人ろう者の男性を案内する機会に恵まれました。彼は視覚障害も持っています。現実的にイスラエル人ろう者は簡単に人を信用しません。それは悲劇なホロコースト、反ユダヤの影響があるからです。彼と直接会って話したことがないのですが、イスラエルでの講演に参加していたようなのです。人を簡単に信用せず、視覚障害を持っている方が勇気を出して私に声をかけてくれたということを知り、とても嬉しかったのです。これを機会に、彼に神の愛、神の光を示すチャンスが与えられたのは喜ばしいことでした。彼のことも、サラさんと同じように満足できるまで、希望の観光場所を案内し、日本文化を教えたり、情報を提供したりし、関係を深めることができました。彼が日本に滞在している間、自分のFacebookで日本での出来事を皆さんに伝えているようで、他のイスラエル人友人たちから感謝のメッセージがたくさん寄せられてきました。彼らにまで感謝されるとは思わず、大変有難いことだと思いました。

もうひとつ、嬉しい報告があります。日本のろう社会で有名な団体2つから、イスラエル訪問について講演してほしいという依頼がありました。現在、日本に行ってみたいイスラエル人ろう者が増えてきているので、日本人ろう者のイスラエルに対する情報が無かつたら文化の違いなどで誤解を与える、反ユダヤ的な行動をとったりする恐れがあります。それを無くすために、講演で日本人ろう者にイスラエルのことを伝えるのは非常に良い機会であり、その機会を神に与えられたことに感謝したいと思いました。その講演のおかげで、イスラエルに興味を持つ日本人ろう者が増えてきました。

ろう文化というのは、国が違っても民族的に同じろう者だというだけで親しみを感じる、というものがあります。そんなろう文化を尊重したいという思いで、講演の時に、イスラエル人ろう者が日本人ろう者に向けたメッセージ動画を参加者の皆さんに見せました。5月には戦没者追悼記念日とイスラエルの独立記念日があり、その2日間、私はイスラエル人ろう者に動画メッセージを送りました。もし、喜んで、と言っていただけるのであれば、ホロコーストについてイスラエル人ろう者の想いを公開したいのです、とお願いしたのです。すると、何人かの方が勇気を出して動画を送って下さったのです。その一部を講演で公開しました。これは、普通出来ないことであり、奇跡そのものです。

最後になりますが、私たちは第一にイスラエルを愛することです。イスラエル人は正しいからだと、苦しんでいるから愛する、ということではありません。理由はシンプルです。神がイスラエルを愛しているからです。(エレミヤ31:3) 神がイスラエルを愛している以上、私たちは神のしもべとして、イスラエルを愛すべきであり、それは義務なのです。パウロも同じでした。(ローマ9:3, 10:1) 第二に奉仕することです。私たちは靈的なものをイスラエルから受けました。今も受け続けています。だから私たちはイスラエル人のために奉仕すべきなのです。(ローマ15:27) イスラエルへの愛の形は色々ありますね。メシアの家では、4つの形で神の愛を伝えています。①イスラエル人ろう者のためにお祈りをする。②イスラエル人ろう者をもてなす。(観光ガイドやホストファミリーなど) ③イスラエルフェスティバル(お祭り)を行う。④イスラエルについて広める。(イスラエル手話を学び、交流、講演を行う)

そして、聴者の皆さんにお願いがあります。ろう教会の中でイスラエル人ろう者を愛する場というのはメシアの家が中心になっています。どうかイスラエルのために、メシアの家のことについて、とりなしのお祈りと寄付のご協力をよろしくお願ひいたします。

増え続けるイスラエル人観光客 今こそ訪日ユダヤ人伝道の時!



シオンとの架け橋 石井田 直二

今年8月にLCJEの国際大会がカナダで行われていた時、私たちはタイのバンコクで開催されたアジア・メシアニック・フォーラムに参加していました。この聖会は、もともと日本で10年前に始まったのですが、不思議な導きでアジア各国を回るようになったものです。イスラエルからは、3人の講師のほかに数人のメシアニック・ジューが参加され、タイからは300人以上、他のアジア各国からも約300人が参加され、とてもすばらしい聖会でした。

■バンコクのカオサン通りを視察

聖会が終わった翌日、日本から参加者約30人と韓国人クリスチャン1人がバスをチャーターし、タイのフォーラム主催チームの



女性に案内していただいて、カオサン通りを訪問しました。

タイは多くのイスラエル人観光客が訪れるところで知られていますが、彼らに人気の高いスポットの一つがバンコク中心部にあるカオサン通りなのです。夜の歓楽街ではあるのですが、今回は日程の関係で昼間に訪れることになりました。

確かに、ヘブライ語の看板があちこちにあり、イスラエル人がよく訪れるという喫茶店に入ると、壁にはイスラエル時間を示す時計や、ヘブライ語の旅行パンフレットなども。昼間なのでイスラエル人を見つけることはできませんでしたが、確かに多くのイスラエル人が来ていることは実感できました。

■カオサン通りでの宣教の試み

昨年にタイを訪れた際には、インドのゴアで宣教に当たっているアンドリュー・イエルチュリ師らが夜にカオサン通りを視察に訪れていました。タイの人々もこの通りでの宣教を試みているそうですが、何しろ歓楽街なので、とても落ち着いて福音を語れるような雰囲気ではありません。トラクトを渡しても効果はありません期待できないとのことでした。イエルチュリ師によると「どこか静かな所に連れ込まないと、話にならない」とのこと。インドのゴアの海岸で、昼間はゆっくり過ごしているイスラエル人たちの方が、はるかに伝道しやすいとのことでした。

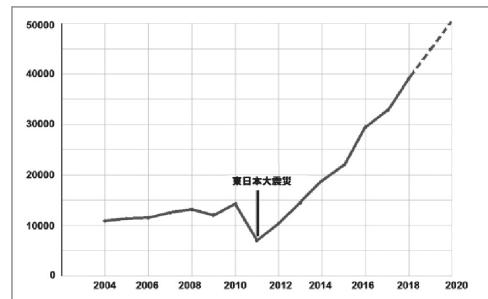
私たちが運営する「バルハバ京都」と同様に、無料か安価でイスラエル人を宿泊させる形式のミニストリーであればバンコクで実施できる可能性はあると、イエルチュリ師らは語っていました。実際、同師はゴアで安価なゲストハウスも運営しておられます。

2年後に開催されるアジア・メシアニック・フォーラムはゴアでの開催が決まっていますので、実際に現地での宣教活動の様子を見ることができるのは楽しみです。実は、ゴアの宣教センター開設にあたっては、私たちも支援をしているのです。

■日本を訪れるイスラエル人の動向

2017年秋にLCJE東アジア・ユダヤ人伝道カンファレンスが日本で初開催されてから、早くも2年の歳月が流れました。その時には、アジア各国で持てる力を使ってユダヤ人に福音を伝える人々の熱意に感動したのですが、この2年間、日本でのユダヤ人伝道の試みは、遅々として進んでいないのが実情です。LCJE日本支部も、所属する諸団体も、現状維持が精一杯で、本格的に日本で宣教活動を推進するだけの体力がありません。

それでも、2年前に年間3万人を超えた訪日イスラエル人の数は、その後も「うなぎのぼり」状態で、



来年には約5万人に達する勢い(日本政府観光局調べ)です。これは、ユダヤ人伝道団体が本格的な伝道活動を行っている世界の諸地域に匹敵する数なのです。

私たちが行ったささやかな伝道活動の経験から見て、ユダヤ人旅行者への伝道に深い知識は必要ありません。とにかく、イエシューの愛を示して、福音に関心を持たせることが私たちの役目だからです。関心さえ持てば、彼らは自分でインターネットを検索して、イスラエル聖書大学やその他の多くの優良サイトにたどり着き、最寄りのメシアニック・コングリゲーションに自分から足を運ぶのです。

来年には、いよいよイスラエルと日本の間に直行便が飛びます。訪日イスラエル人の数はもっと増えるでしょう。訪日ユダヤ人伝道は「待ったなし」。LCJE日本支部は、神学的立場の違いを乗り越えて門戸を開放し、イスラエルに関心を寄せる日本の多くの教会に、ユダヤ人伝道に向けた現実的なサポートを与えて行くべきではないでしょうか。



ラオディキアにある教会と現代の教会

アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

ラオディキアは、金融業、織物業、製薬業が盛んな町であった。つまり、金と良い服ならびに目薬があった。しかし良い水がなかった。そのため、コロサイとヒエラポリスから必要な水をパイプによって引き入れていた。コロサイの水は冷たい水であったが、ラオディキアに着く頃には生ぬるくなっていた。ヒエラポリスの水は熱い温泉水であったが、やはり、ラオディキアに着く頃には生ぬるくなっていた。イエスは、ラオディキアにある教会について、冷たいから悪いとも、熱いから良いとも言っていない。冷たいか熱いかであって欲しい、と言っているのである。

冷たい水は、暑い時、人に力を与える。いや、いのちを与える、とも言える。また、温泉水も人に力や癒しを与える。しかし、ラオディキアにある教会は、町に引き入れられた水のように生ぬるく、人に力もないのちも癒しをも与えていなかったのだろう。だから、イエスは、口から吐き出す、と言われたのではないか。しかし、まだ教会は口の中にあった。それは、イエスがラオディキアにある教会を良く知っていたことを意味する。だから、イエスは、ラオディキアにある教会が、物質的には豊かであっても、靈的には貧しい、と言われたのである。実際に、ラオディキアにある教会は、イエスを追い出していた。彼らは、戸を叩くイエスを迎えるべきであった。現代の教会もイエスを迎えるべきである。イエスは、神であり、あまりにも大いなる方である。そのため、教会は、イエスを迎え入れ、神を更に知るべきだ。

エペソの教会に対し、パウロは、知恵と啓示の靈を受けるように、と記した。エペソの教会は、大リバイバルを経験したが、それでも、更に神を知るべきだった。それは、現代の教会にも求められるものである。また、イエスを信じる者には、生ける水の川が流れ出るようになる、と記されているが、その川は複数形である。教会は、それらの川のすべてを体験すべきだ。そして、イエスは、来て飲みなさい、と言われた。教会は、更にイエスに近づき、自ら飲むべきである。ある牧師が「正解を持っている、と思った瞬間に扉が閉まる」と語っていたが、筆者も同感である。神を体験すること、あるいは知ることに関し、キリスト者は、更に貪欲に、且つ、謙遜になるべきである。

最近、問題となった「使徒」について、筆者は、今年の6月、ある体験をした。南米から初来日された一人

の牧師の通訳を務めたのである。彼は多くの人から使徒と呼ばれている。その聖書解釈は、深く、力強く、聞く者を励まし、立ち上がらせるものであった。そのためか、会場は、二日目から最終日まで満席となった。多くの者が、喜び、そして満たされて帰って行った。また、その働きにはしるしが伴っていた。彼と過ごした約一週間、非聖書的な事柄は一切感じられなかった。そして、彼が、自分の言葉を聖書と同等あるいはそれ以上のものとすることもなかった。つまり「使徒」を否定する意見の中に見られるような問題点を見出すことはなかった。

「使徒」というテーマは、これからもフォローされるべきである。そして、このテーマについての聖書的根拠を求めようとする時、LCJE ニュース 8月号の「神学論争に際し留意すべきポイント」に記したように、(1) 聖書が明確に肯定しているのか、(2) 聖書が肯定している可能性はあるが、明確でないのではないか、(3) 聖書が肯定も否定もしていないのではないか、(4) 聖書が否定している可能性はあるが、明確でないのではないか、(5) 聖書が明確に否定しているのか、に留意し、進めることができると思料する。つまり「決めつけ」「食わず嫌い」は、止めよう、をお勧めしたい。

さて、ラオディキアにある教会には「わたしの座に着かせる」(黙示録 3:21) という約束が与えられている。この座に着く目的は、裁きなのだろうか。続く黙示録 4 章 4 節には「御座の周りには二十四の座があった」とある。それは、御座についておられる方の前にひれ伏し、その方に賛美を捧げる二十四人の長老たちのものである。したがって「わたしの座に着かせる」目的のひとつは、主に賛美を捧げることなのかも知れない。そして、続く5 章 13 節には、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものが、御座に着いておられる方と子羊に賛美を捧げる様子が記されている。すべての造られたものやそれらの中にあるすべてのものとは、人間だけでなく、全被造物である。これは、詩篇 148 篇に記された全宇宙が奏でる大賛美である。これは、創造主なる神とその子どもたち、すなわちキリスト者が求めるべきものだ。同篇の最後には「主は御民の角を上げられた・・・イスラエルの子らの賛美を。ハレルヤ。」と記されている。つまり、イスラエルの子ら（ユダヤ人）の賛美がなければ、この大賛美は完成しないのである。現代の教会は、この壮大な目標から目を離してはならない。



神の愚かさ

LCJE 北米コーディネーター ゲアリー・ヘドリック 翻訳：近藤宏子

なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。（コリント 1:25）

全能の神が愚かなことをしたり言ったりするとは想像しがたいものです。

神への冒涜であるとさえ思われます。しかし聖書のこの節ははっきりと「神の愚かさ」について語っています。

もちろんよく考えてみれば、パウロがここで文学的手法を用いていることは明らかです。これは要点を教えるために用いられたパラドックス（一見真理に反するようでいて、よく考えると真理を表わしている説）です。すなわち神のもっとも「愚か」な考え方も人の知恵よりはるかにまさるものであると教えているのです。

これは実に目的を射ている言葉であります。皆さんは神に従うべきがあるいはあなた自身の知恵と考えに従うべきか選択に迷ったことがありますか？私はありますし、多分皆さんもそうだと思います。

「神の愚かさ」を信頼し、私たち自身の知恵を拒否しなければならない時があります。

■神のパラドックス

神が私たち人間の知恵に挑戦なさっている箇所（パラドックス）をいくつか聖書の中に見ることができます。

- ・真の自由はしもべとなることにより得られます（ヨハネ 8:36）。
- ・戦う時、武器を頼みとしなければしないほど、勝ち目があります（ヨハネ 6:9、I歴代誌 16:35）。
- ・いのちは死から生じます（ヨハネ 12:24）。
- ・仕える者となることこそ偉くなるための秘訣です（マタイ 19:30）。
- ・何かを保つための最善の方法はそれを与えてしまうことです（マタイ 6:19 - 20）。
- ・もしあなたが全世界を手に入れたければ福音をユダヤ人に伝えることです。

■私の好きなパラドックス

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。（ロマ書 1:16）

この聖句は私の大好きなパラドックスです。使徒パウロが生涯をかけたユダヤ人伝道の優先性が明白に示されているからです。彼は行く所どこにおいても、まずシナゴーグ（ユダヤ教の会堂）に行きました。サラミス（使徒の働き 13:5）、アンティオケ（13:14 - 16）、イコ

ニウム（14:1）、テサロニケ（17:1 - 3）、アテネ（17:17）、コリント（18:1 - 4）、エペソ（18:19）で、また他の各地でもシナゴーグに行きました。

救い主イエ稣の宣教生涯においてさえユダヤ人を優先する順序を見ることができます。例えば、ガリラヤでは異邦人のところに行くより、まず「イスラエルの家の失われた羊のところに」行くように弟子たちに命じています（マタイ 28:19）。後になってイエ稣はユダヤ人の弟子たちに「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」と指示しています（マタイ 10:5 - 15）。このマタイの福音書の2つの章で、イエ稣が「まずイスラエルのところへ」それから「国々へ（異邦人へ）」と行くように命じているのは注目すべきことです。このように、イスラエルを通して世界を祝福するという神の計画が聖書の枠組みには織り込まれているのです。このことを示している聖句は創世記 12:2 - 3、イザヤ 2:2 - 4、11:1 - 10、60:1 - 3、アモス 9:11 - 12、ゼカリヤ 2:4 - 5、10 - 12などです。

このことを理解できない人々がいるかもしれません。ユダヤ人からの応答が少ないように思われるのに、なぜユダヤ人伝道に力を注がなければならないのかと思われることでしょう。答えは、神がそうするように望んでおられるからなのです。

■福音に応答しそうにないグループに優先して伝道する

パラドックスのもうひとつの側面があります。それは応答しそうにないグループを優先するということです。そう、これは実に「愚か」なことのように思われます。しかし考えてみて下さい。私たちが神に従う時、神は祝福を以って報いて下さる方なのです。

宣教学者たちは今日世界の出生率は靈的いのちの出生率を上回っていると言います。すなわち、私たちが人々を主のもとに勝ち取っていくよりも早いスピードで、人は生まれてくるのです。そして一日一日と過ぎていく毎に一歩一歩後退しているのです。世界宣教に関する教会の戦略は現在、よく機能していないのです。

今こそ大胆な「新しい」取り組みが必要な時です。それぞれの教会でユダヤ人伝道を第一としようではありませんか、そして神のなさることを期待しようではありませんか。

Gary Hedrick garyh@cjfm.org

2. LCJE 日本支部にとってのアミット論文の意味

日本に住むユダヤ人が少なく、ユダヤ人に対する直接伝道を行う手段が限られている日本では、ユダヤ人伝道へのクリスチャンの貢献は祈りと献金という間接伝道が主な手段になります。そのような中で、日本のクリスチャンに対する LCJE 日本支部の貢献として、ユダヤ人宣教団体の情報を正確にお伝えすることも重要な働きの一つであると私は考えています。そのためには、時にはあま

りうれしくない、ネガティブな情報もお伝えしなければならないこともあるかもしれません。ただ、それは日本のクリスチャンが効果的にユダヤ人に対する間接伝道を行い、神の国の働きに貢献するためには欠かせないことだと確信しています。そのような情報がないと、私たちの労苦がむだになる可能性もあるためです。そういう意味で、今回のアミット論文は LCJE 日本支部が担うべき役割の一つのモデルを示したと考えています。

LCJE

LCJE日本支部事務局レター

LCJE は、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJE として支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断してくださいますよう、お願ひいたします。

【2019/2020年度祈祷会予定】

場 所	11月	12月	1月	会 場
大阪(6:30より)	7日	12日	9日	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	9日	14日	11日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後 6 時半開始です。

【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。

階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

■「イスラエルの歌 CD」申し込み受付中です。

内 容	金 額	注文件数における特典
全 6 枚・税・送料込み 全 50 曲 CD6 枚 (歌入り 3 枚・カラオケ 3 枚)	10,420 円	5 セット以上の場合、送料無料。 金額も 50,400 円とお得。
歌入り全 50 曲 3 枚組 CD1 CD2 CD3	各 2,300 円	
伴 奏 全 50 曲 3 枚組 CD1 CD2 CD3	各 1,400 円	歌いやすく、ガイド入り

●ご注文先●

販売制作／サムエル企画 代 表／鳥谷部 裕之 住 所／京都市右京区太秦安井馬塚 6-4
電話・ファックス／075-813-7873 電子メール／samuelplanning@yahoo.co.jp

LCJE日本支部2019年8月度会計

収入・献金		支出・現金	
科 目	金 額	科 目	金 額
献 金	164,210	事 務 費	12,800
大阪祈り会席上献金	10,000	NEWSレター製作費	50,120
		郵 送 費	40,000
		郵 便 振 替 手 数 料	4,400
		通 信 費	5,500
		賃 借 ・ 管 理 費	21,600
		高 热 費 ・ 共 益 費	9,992
		交 通 旅 費	7,000
		祈 り 会 経 費	11,600
		国際大会出席費	
合 計	174,200	合 計	163,012
		差 引 残 高	11,188
前月よりの繰越	163,030	翌月への繰越	174,218

事務局よりのお知らせ

LCJE 日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は 2000 文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は [FAX 072-867-6721](tel:072-867-6721) まで。宜しくお願ひ致します。

編集後記

コ・ワーカーの皆様お元気でしょうか。2019 年も残すところ後 2 か月です。

世界中が落ち着かない年末を迎えることになりそうです。特にイスラエルの政治、中東の情勢を覚えて祈らねばなりません。

今月の LCJE ニュースもイスラエルを愛する方々の興味深いニュースお手元へ届けられる幸いに感謝しています。特に連載されていくトロントで行われた国際大会の報告記事にご期待ください。引き続きまだ主とお会いしないユダヤ人には一日も早く主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の祝福がありますように。シャローム

LCJE 日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝